

III-2

石器はどんな材料から作られたのだろうか？

石器に使われる石は、緻密で硬く割りやすい石が選ばれています。ガラスに似た黒よう石は、中でも石器を作りやすく切れ味も鋭いので、日本各地で使われました。また、近畿や瀬戸内地方では、サヌカイトと呼ばれる安山岩の仲間が、東北地方では細かな泥が固まった頁岩がさかんに使われていました。これらの質がよい材料は、遠くまで運ばれることが多く、こうした石器の石材を研究すると遠い地域との交流もわかってきます。岩宿遺跡では、渡良瀬川で拾えるチャートを使っていたように地元にある石材も使われています。このように石器に使われた石材には、地域によって特色があることが分かっています。

● 代表的な石材



黒よう石 (北海道白滝)



頁岩 (山形県月布川)



サヌカイト (奈良県二上山)



チャート (群馬県渡良瀬川)



● 黒よう石の大露頭 (北海道白滝)

(提供：北海道埋蔵文化財センター)



● 渡良瀬川の河原で石材を探す

石器の材料になる石は、岩石ができた状態で露出している露頭からも石材を手に入れていたが、そこから流れ出した川の河原で見つけたことも多かった。